**平成２９年度　第１回アートを活かした障がい者の就労支援事業企画部会**

**議事概要**

**日　　時**：平成29年９月２０日（水）14:00～16:00

**場　　所**：プリムローズ大阪４階「松寿」

**出席委員**：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（五十音順・敬称略）

今中　博之 社会福祉法人 素王会　理事長

植木　啓子 大阪市 経済戦略局文化部文化課（新美術館整備担当）主任学芸員

川井田　祥子 鳥取大学　地域学部　教授

鈴木　京子 ビッグ・アイ共働機構（国際障害者交流センター） アーツ　エグゼクティブ　プロデューサー

高市　純行 毎日新聞社 総合事業局 事業企画委員

殿村　壽敏 社会福祉法人 精神障害者社会復帰促進協会 理事長

藤原　明 りそな総合研究所株式会社　リーナルビジネス部長

山口　孝 ギャラリーヤマグチ　クンストバウ

**○委員　　◆事務局**

**議事１　アートを活かした障がい者の就労支援事業企画部会運営要領（案）等について**

**資　　　　料**：

資料２　アートを活かした障がい者の就労支援事業企画部会運営要領（案）

**結　　　　果**：

　府の障がい者施策関係の各協議会の役割・機能に係る整理に伴い、本部会の組織的な位置づけの変更およびそのための手続の必要性について、報告し、了承を得た。

**主な意見等：**

○　議事録は公開前に各委員への確認依頼をするか。

⇒◆そうさせていただく。

**議題２　これまでの成果と今後の方向性について**

**資　　　　料：**

　資料３　　大阪府における障がい者アート施策の今後の方向等について

別紙１　大阪府公募展について

別紙２　大阪府福祉基金地域福祉振興助成金を活用した「アートを活かした障がい者の就労支援事業」（capacious）について

**結　　　　果**：

　公募展の今後の方向性については、これまでの実績・経過等を踏まえつつ、支援対象とすべきアーティスト・事業所の発掘という観点や公募展そのものの効果も考慮して、複数年に一度の開催も視野に、そのあり方を検討していく。

**事務局説明要旨：**

◆これまでの成果は別紙１のとおり。

◆今年度の公募展作品募集ついては、本日〆切のため、応募作品数は集計中

◆販売支援については、各事業所からも、カペイシャスによる支援継続を望む声を聞いている。◆今後も販売等支援は継続していく方向

**主な意見等：**

○　公募展に関する「今後の方向性」として、「ビッグ・アイとの連携」を継続するとあるが、具体的にはどういうことか。今までとの違いは出てくるのか。

　⇒◆　府の予算要求等の状況を踏まえながら、ビッグ・アイと協議して検討していく公募展の開催形式が変わる可能性あり。公募を通じた府内アーティストの発掘につなげたいとの思いはある。

○　今年の連携状況はどうなっているか。

　⇒◆　今年は、ビッグ・アイと共催で公募展を開催し、その成果として、応募作品数が大幅に増えている。

　　○　最終の応募作品数は、集計中だが、1700作品くらいになると見込んでいる。来年度以降のビッグ・アイとの連携については、ビッグ・アイの未確定事項も多く、具体的には説明し難い。ビッグ・アイは、国の施設であり、国の予算の状況による面もある。

○　応募作品数が増えた具体的理由は何か。

　⇒○　コンクールの乱立状況があるが、それらは地域限定がほとんど。これに対し、ビッグ・アイは応募者の限定をしていないので、これまで地域限定のコンクールに応募してきた方々が、もう少し広いところに出していようと思う段階に至ったのではないか。もう１点は、これまで、海外での展覧会等も重ねてきているので、ビッグ・アイ　アート・プロジェクトの知名度が上がって、海外からの応募も増えたのではないか。あとは、大阪府公募展にのみ応募していた方々が、今回応募してきたこともあるのではないか。

○　福祉基金に対し応募できる事業者は、府内事業所に限定されていたが、今後はどうなるのか。

　⇒◆　福祉基金の要綱上、そのような限定があった。障がい福祉室の事業としては、パラリンピックが近づいていることもあり、幅広く参加していただける、としている。

○　発掘や販売支援の対象も、例えば、東京のアーティストでもいいのか。タイの方でもいいのか。

　⇒◆　販売支援の対象は、府内の事業所・アーティストのみ。ビッグ・アイが独自に府外・海外の方を支援するのは可能。

○　そうであれば、公募展の対象を府外に広げてはいけないのではないか。

　⇒◆　公募展は支援対象の発掘のみを目的にしているのではない。大阪からアートの取組み・魅力を府内外に発信するものでもある。発掘や販売支援等は府内中心という二層構造。

○　公募展の募集対象を全国に広げたということは、極端に言えば、府内のアーティストが一人

も選ばれない可能性があるということ。その場合、どうやって、販売支援の取組みにつながる府内アーティストを発掘するのか。例えば、大阪府賞など、府内アーティストに限定した賞の設定などがあるのか。

　⇒◆　「大阪府知事賞」がある。府内アーティストに限定していない。販売等支援については、受賞していないからと言って支援しない、ということではない。

○　Capaciousは、基本的に、府内事業所や府内アーティストを中心に支援することは今後も変

わらない、ということか。

⇒◆　そのとおり。

○　公募展について「国内外を問わず」ということにするのはいいが、府の事業である以上、府内事業所にはきちんと広報をすることは重要。いろんな情報提供ルートを工夫して活用ほしい。障がいのある人たちは、情報収集に関して不利なところがあるので、力を入れていただきたい。

○　今回、予算額は前年度より増えているが、公募展を共催したのは、予算の都合か。

　⇒◆　メディアへの露出や発信力が弱い点を、ビッグ・アイとの連携を通じて補強したいということ。

○　第７回大阪府公募展としての認知度は上がったのか。どちらかと言えば、これまでのビッグ・アイの公募展の継続というイメージだけになっているのではないか。前回の部会の議論を踏まえて、どのように今回の実施方法等に反映されたのか。

　⇒◆　事務局としては、「第７回大阪府公募展としての認知度」を上げたい、ということではなく、府の施策・取組み全般の認知度を上げたいという趣旨。

　　　　前回の部会で、全体の方向性としてはご承認いただいたと認識。それを踏まえて実施している。

○　前回の部会では、そもそも公募展をやる意味があるのか、という議論があった。一般のアート市場につなげる、という就労支援の観点からは、公募展の継続や公募展そのものの認知度を上げることに経費を使う必要はない、と明確に申し上げた。

○　多額の予算を使って公募展をやる必要はない。それよりも、７人のアーティストに予算を集中すべき。それができないのはなぜか。

　⇒◆　集中はできる。ただし、公募展的な取組みは、来年度から実施形式等が変わったとしても、府の支援施策につながるルートとして、必要と考えている。

○　行政としての必要性は理解するが、裾野を広げることは、この部会の目標ではない。

　　◆　「裾野を広げる」という言葉の意味だが、現在、福祉基金により支援をしている７名のアーティスト・５つの事業所が、例えば、年１名・１事業所程度、増えていくイメージ。

○　１つの事業やギャラリーで、これ以上支援対象が増えても大丈夫なのか。

　　○　通常の画廊単位であれば、まだ大丈夫ではないか。

○　７名のアーティスト以外にも才能あふれるアーティストが府内にまだいるとすれば、それをすくい上げる網を持っておく、という点で公募展的な取組みの意味はあると思う。

○　私の経験上、今の福祉基金の支援体制で、これ以上支援対象を増やすことは、アーティスト本人や家族の心のケア等の観点からも大変なことであり、７名で十分ではないかと思う。

○　府の予算は、府内の障がい者アーティスト（の販売支援等）に限定するべきではないのか。この点、国の施設であり、全国の障がい者を支援対象とするビッグ・アイの方針とは合わないのではないのか。

　⇒○　ビッグ・アイは、特定の人の作品販売支援をしない、とか、就労支援を否定しているのではなく、希望する人に希望する支援をするスタンス。就労支援という観点で府の委託事業を実施する際は、それぞれの支援の関係性について協議したい。

　　◆　来年度以降、今年度の国事業としての都道府県内の支援事業が、都道府県１／２負担となり、府からの委託事業となる見込み。それらも含めて、全体的な府の施策として、今年度までの成果をもとに、ビッグ・アイと連携して、いかに取組んでいくべきか、その方向性を本日、ご議論いただいている。

○　公募展は、毎年やる必要はないのでは。例えば３年に１回、などの開催でよいのではないかと思う。上位入賞者も固定するし、かと言って、まったくやらないというのも、発掘できないということにつながる。

⇒○　そのご意見に賛成である。毎年やっているとマンネリ化する。

○　７名に限定して支援していく時期に来ていると思う一方で、行政である大阪府が、７名だけの支援に限定して、他のアーティスト等への支援を全く行わない、というのもイメージできない。Capaciousの活動も、公募展があったからできた。そういう意味で、公募展はたとえば３年に１回開催し、公募展を実施しない年は、例えば、その分の予算をCapaciousの活動費に充てるということができるとよいと思う。

◆　来年度以降の国の事業との関係も含め、本日ご議論いただいている内容を踏まえて、事業展開していきたい。とりわけ、府内の事業所の支援を進めていきたい。ご提案いただいたような、公募展は３年に１回開催し、それ以外の年は、Capaciousのこれまでの成果を踏まえた支援について、継続的に行っていきたい。

○　その場合、公募展をやらない年は、ビッグ・アイも公募展（ビッグ・アイ　アート・プロジェクト）を実施しない、ということになるのか。

　⇒◆　ビッグ・アイ独自の活動たる展覧会の開催については、府の決定の影響を受けない。

○　ビッグ・アイが実施しているような、障がい者アートのインターナショナルな公募展は、他

の国々でも行っているのか。

　⇒○　知っている限りでは無い。

◆　本日のご議論を踏まえると、公募展の今後の方向性については、「これまでの実績・経過等を

踏まえつつ、支援対象とすべきアーティスト・事業所の発掘という観点や公募展そのものの効

果も考慮して、複数年に一度の開催も視野に、そのあり方を検討していく。」という記載に修正

すべきと考えるがそれでよろしいか。

　⇒○　公募展を開催しない年に、何をするのか、Capaciousの支援や発掘したアーティストをどうフォローするか、なども記載しておいてほしい。

　　○　公募展を毎年開催しないことによって、事業が後退したということの無いようにしていただきたい。

**その他**

　特になし。